

モ知ベカラズ、是以テ立置ノミ、牡木ヲ悉拔棄テ、其跡ニ水糞ヲ饒ニ澆ベシ、翌年ニ生ズル苗ハ皆牝木ナリ、草ヲ耘培養ヲ懇ニシテ成長セシメ、一尺三四寸ニ及ビタルヲ植地ニ移シ栽ウベシ、植地ハ熟畑ノ軟膨タルニ宜シ、路傍ノ行木等或ハ田畠ノ周圍ナドヲ軟膨テ栽ベシ、水邊ニ植タルハ、成長スルコト殊ニ速カナリ、或ハ山野中ニ栽ト雖ドモ、牛馬ノ力ヲ用テ能ク其土ヲ犁返、草茅木ノ枝葉等ヲ耕錯テ、其植ル處ヲ濶深二尺許ヅ、地ヲ軟膨テ植ルトキハ、早ク成長シテ實ヲ結コト多シ、此ヲ栽ニハ正月月中旬ヨリ三月中旬マデノ間ト、八月下旬ヨリ十月初ヲ以テ良トス、雨後ノ濕アルニ栽ベシ、五六寸ノ穴ヲ掘リ、根ノ土ノ附タルヲ栽テ、上ニ肥土ヲ少シ高キ程ニ覆ヒ、押付テ置トキハ、日アラズシテ能活著者ナリ、漆樹ハ植付テ他ノ草ヲ耘リ、心ヲ用テ培養フトキハ、移栽テ五年目ニハ花ヲ見セ、六年目ニハ實ヲ一升モ結、七年目ニハ二升ニモ及、八年目ハ三升餘、九年目四五升、十年目ニハ六七升ニ至、十五年ニハ一斗二三升、二十年目ニハ二斗以上、三十年目ニハ三斗餘、四十年目ハ四五斗、五十年目ニハ五六斗ノ實ヲ得ルニ至ル、此レ漆木ハ長壽ナル者ニテ、年ヲ經ルニ從ヒ、實結コト愈多ガ故ニ、會津ニハ百年ヲ越テ、年々一石以上ノ實ヲ生ズル大木有リ、

〔日本山海名物圖繪三〕漆製法

漆の木に、鎌にて切目をつくれば、其切目より汁ふき出るを、竹べらにてこそげ取也、こそげ入るうつは物は、茶の濃きせんじ汁を入、くるみの油を加へて、其上へ漆をこそげいるれば、漆やけずしてよしといへり、凡漆を取には至てほそき木は汁なし、又格別の老木もわろし、和州吉野紀州熊野、うるしの名所也、其外諸國より出、うるしの木の實は取て蠟にする也、

〔令義解三〕賦役、凡調絹繩略

○註 絲綿布並隨郷土所出、○中 正丁一人、○中

漆三勺、金漆三勺、

〔類聚三代格十六〕太政官符